日刊 動労千葉
79.9.3
No. 214
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二-八（動力車会館）
〔鉄電〕二二五八~九・〔公衆〕〇四三(22)七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

この暴挙を許せるか？

8/31 佐々木〔本部〕青年部長等が動労千葉組合員を「ピットへ突き落す」

動労千葉の組合員のみなさん！　われわれは「8・30組織破壊攻撃粉砕・反動密通裏切り分子糾弾、津田沼拠点総決起集会」の圧倒的成功をもって、「本部」反動集団による、潜入「革マル分子」島田誠を前面に押し出し全国動員「防衛」隊の暴力的威圧を背景とした「動労千葉再建」策動を断固粉砕し、勝利の一歩を築いたことを報告する。　同時に「島田誠糾弾」の怒りが大衆的に燃えひろがるなかにあって、ますます窮地に追い込まれた「本部」反動集団による、動労千葉組合員に対する八月二九日台検通路でのテロ・リンチ、八月三一日「ピットへ突き落す」等というますます凶暴化する暴力行為をわれわれは絶対に許すことはできない。

8/29　島田立会いのもと台検通路で、テロ●リンチ

八月二九日一七時、いつものごとく「動労組合員」防衛と称して狩り出され石津（「本部」法対部長）にひきいられた反動分子二〇数名は、台検通路で島田誠らとなにやらコソコソと打合せをしていた。退区のためそこを通りかかった動労千葉組合員が抗議したところいきなり反動分子がむなぐらをつかみ、なぐる、けるの暴行を働いたのである。同行の組合員が島田らにこの事態の釈明をせまるや、島田らはコソコソと反動分子のカゲに逃げこみ、消耗した顔を精一杯虚勢をはって冷笑するという許せない態度をとったのである。しかもその直後、反動分子は釈明を求めた組合員に対し、数人がかりでおさえつけ飛ゲリ、金ケリ、パンチをふるうという、あらんかぎりの暴行を尽したのである。しかし最も許せないことは、この暴力テロ・リンチを直接指揮した石津（「本部」法対部長）は、自らの悪業のバレることを恐れるあまり、反動分子特有のスリカエとデマを使って、動労千葉組合員に暴行をうけた等と当局に泣訴したのである。

8/31　ビラはがしに抗議した組合員を「ピットへ突き落す」

日に日に高まる糾弾、追及行動によって「本部」反動集団の〝防衛〟動員の効もむなしく島田誠らの裏切り密通分子は消耗し、職場の労働者の中で完全に孤立化してしまっている。

こうした事態に危機感をもった「本部」反動集団は、動員数と暴力で「島田誠糾弾」の闘いを圧殺して組織破壊を策動して、八月三一日、早朝から一〇〇名の反動分子を検修職場にひきいれたのである。わが動労千葉は、津田沼支部を中心に各支部からの動員者五〇名で組織防衛のため乗務員詰所に待機していた。一五時三〇分頃、佐々木（「本部」副青年部長）を先頭に五〇名が検修庫へ侵入し、動労千葉のビラをはがしはじめたのである。これを発見した動労千葉組合員が五名で抗議に行くと、佐々木等がやにわに襲いかかり二名の組合員をピットへ突き落すという暴挙を働いたのである。この許しがたい暴挙の知らせを受けた乗務員詰所に待機していた組合員は、怒りに燃えこれ以上の「本部」反動集団の暴行を許さないために抗議と組合員防衛を目的に検修詰所に向かったのである。

しかし彼らは、検修詰所でわれわれの行く手をはばんできたのである。われわれはその場で「ピットに突き落した」佐々木らに抗議し責任を追及した。これに対し、佐々木は「引き落されたのはわれわれだ」と開き直った。しかし、ピットに突き落された動労千葉組合員が前に出て「嘘をつくな。引き落されたという奴は前へ出ろ。事実をはっきりさせよう」と追及すると、「出す必要はない」と答えるのみであった。

嘘の上に嘘をつみ重ねる「本部」反動集団！

八月二九日の「石津（「本部」中執）が暴行をうけた」等とデッチ上げるやり方と同じくまたも「本部」反動集団待有の嘘の上に嘘をつみかさねる卑劣な手口なのである。四月一七日、津田沼支部長を頭がい骨骨折の重傷を負わせた許しがたい反労働者行為を、今日に至るも「4・17は当然であり動労の方針でやった」と居直る人間性のカケラもない労働運動を逸脱した「本部」反動集団であるかぎりまたまた「当然なこと」だと居直るであろう。

われわれは、かかる反動的暴力を行使し動労をセクト的に私物化し、当局権力の手をかりて動労千葉を破壊しようとする「本部」反動集団を絶対に許さない。とりわけ組織破壊裏切り分子島田らを徹底糾弾し、「千葉地本再建」策動を粉砕しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！